

8月のささやまっこだより

令和6年8月1日
篠山保育園
園長 足立善一郎

セミの鳴き声が園庭に響き渡り、子どもの笑顔は满面となり、大人は暑さをひしひしと実感する毎日です。各地では体温以上の気温が観測されるなど、驚くことばかりですが、暑くても子どもたちのパワーはすごい!“みずあそび”に“どろんこあそび”そこに“せみとり”が加わりやる気満々。保育者も負けられません。熱中症のことも頭にとどめながら、「木陰であそび、水分をこまめにとるように声掛け」、「外遊びの時間を短くする」、「表情の変化をチェックする」など意識して保育をしています。どろんこあそびでは「体全身でたわむれることができるかな?」どろんこあそびは洋服がよごれても構いません。叱られることもありません。この解放感だけでも子どもたちの気持ちはたかぶります。「わあ みずがあふれたあ!」、「川がこわれたあ」などあちこちから声が聞こえてきます。このような時の子どもたちの顔は、「きらきらした表情」そのものです。保育者としても「ほっ」とする一瞬でもあります。



“ばら組のおとまり会 大成功” (7/13,14)

年長ばら組さんのおとまり会がありました。何週間も前から予定を確認し、楽しみにしているようすがひしひしと伝わってきました。保護者の皆さんにとってもわが子と一日離れて過ごすという一大行事でもあったようです。おとまり会では「自分のことは自分でする」そして「なんでもできるんだ」という力を確認してもらう行事でもあります。当日は、天候に悩まされましたが、ほぼ晴天の計画で進めることができました。プールでの宝探し、カレーライス作り、ゲーム大会、そして夜はキャンプファイヤーと打ち上げ花火大会と盛りだくさん。シャワーで汗を流し就寝。大好きな仲間と一緒にだなんて乗り越えられる「気持ち」を強く感じたように思います。保護者のお迎えの時には誇らしげなようすでした。



8月の行事予定表

- 17日(土) 園内研究会
- 21日(水) 避難訓練
- 27日(火) 誕生会
- 19日…えいごであそぼう(ばら組)
- 26日…えいごであそぼう(ふじ組)

9月の行事予定表

- 4日(水) } 城南中職場体験
- 5日(木) }
- 12日(木) } 櫛原中職場体験
- 13日(金) }
- 14日(土) 園内研究会
- 20日(金) 避難訓練
- 25日(水) 誕生会
- 2日、17日…えいごであそぼう(ばら組)
- 9日…えいごであそぼう(ふじ組)

8月20日(火)をもってプールあそび終了

汗を流すためのシャワーは引き続きしていきますので、もも、ふじ、ばら組さんは、タオルをビニール袋に入れて毎日持たせてください。水着はいりません。

(プールカードの記入は引き続きお願いします)

すみれ、たんぽぽ、さくら組さんは沐浴をする日もありますので、沐浴の○×は引き続きお願いします。



お風呂も
きもちいい!

お知らせ

8月5日(月)は、筑後川花火大会です。お迎え時間帯は、保育園周辺の道路が渋滞しますので、いつもより早めのお迎えをお勧めします

『子どもに言ってはいけない言葉』

— 本音で話す子どもに育てるために—

☆ 大切なのは、込められた心や感情

ある時「子どもにけって言ってはいけない言葉は、どんな言葉ですか」と質問され、一瞬、戸惑いを感じたことがありました。なぜなら、親が子どもに何かを話すとき、「言葉」そのものより、その言葉に伴う心や感情が、重要な意味をもっているからです。社会一般でも同じことでしょう。どんな言葉であっても、それにどのような気持ちや感情をこめて言うかが問題のすべてです。子どもに伝わる「意味」は、言葉の表面的な意味よりも、込められて心や感情の方なのです。

… 中略 …

☆ 子どもの自尊心を傷つけないで

子どもにかぎりませんが、相手に向かって、絶対に言ってはいけない言葉の一つは、相手の人格を否定したり、自尊心を傷つけたりしてしまう言葉です。その子のプライドを傷つけたり失わせたりすることを、けってしてはいけないということを、子どもを育てている人たちの誰もが知っていてほしいと、強く思います。

自尊心が損なわれる育てられ方をしてきた子どもたちに共通するのが、自分を信じる力が弱く、他人のことを信じられないという傾向です。他人を攻撃することに抵抗がありません。この延長線上にあるのが、いじめです。いじめる子どもたちは、基本的に人と共感することができませんから、他人が自分より優れていたり劣っていたりすると、簡単に劣等感や優越感を抱いて、いじめに発展するのです。そういう心の傾向を作るのが、大人たちの言ってはならない「言葉」です。

… 中略 …

☆ 母親は最上級の守護神

子どもにとって母親は、自分のことを絶対に守ってくれる守護神にたとえられほど、大切な存在です。そんな絶対的な存在に守られながら、子どもは安心して力強く育っていきます。非行や犯罪に走ってしまう子どもたちは、乳幼児期から、この安心感が十分に与えられずに育っているという、たしか実証的な研究があります。最初の、親を信じることにつまづいてしまうと、うまく人と関係が築けず、社会性が育たないまま、大きくなってしまいます。親の顔色などを見ることなく、思っていることを本音で言える子どもに育てることは、このうえなく大切な育児指針です。そのために日常、親はどのような態度と言葉で子育てをするのがいいか、よく考えてみてください。

「はじまりは愛着から」:佐々木正美著

保育園でもびっくりするような言葉が飛び交うことがあります。私たちも子どもたちの話をゆっくり聞いて、よき理解者になれるよう努力をしているところです。